



## Be creative !

### 私たちはどう生きる—災害と共に考える

### 3学期始業式式辞・2年学年主任石崎先生に学ぶ

能登半島の地震によりお亡くなりになった皆さんのご冥福をお祈りするとともに、被災された方々へお見舞いを申し上げます。

みなさんも驚いたことと思います。まずは携帯のアラーム音に、そしてその直後にやってきた長い揺れに。あの時、自分がどこにいて、どんな行動を取ったのか、思い出してみましょう。私はリビングにいました。まずガストーブを切りました。学校の訓練を思いだし、シェイクアウトの姿勢を取りました。揺れの時間が長く感じられました。揺れがおさまった後にほっと安心をしましたが、ドアを開け、避難経路を確保することを忘れていたと後から思いました。

この30年間に私たちはいくつもの大きな地震による災害を経験してきました。阪神淡路大震災、東日本大震災、中越地震、熊本地震、そして、この能登半島の地震。改めて地震大国、災害大国に私たちは住んでいるという認識を持たねばなりません。訓練と日頃の備えの大切さを改めて実感する新年となりましたね。日頃の備えは以前に比べれば進んでは来ているのですが、連日、新聞を読めば「物資が底をついてしまった」「孤立して連絡が取れない」「避難所での隣の人の話し声が気になって、せめて仕切りがあれば」「トイレが不衛生すぎる、簡易トイレの使い方がわからない」など、先の震災で聞かれた声と同じように聞かれます。災害が大きければ大きいほど、その対応は容易ではない、研究や取り組みは進みつつあるものの、実際の対応はやはり難しいようです。

いち早く、2年生学年主任の石崎先生が、この災害に関わり、2年生の皆さんに向けて文章をまとめられました。2年生の皆さんには始業式後の学年集会で配布をする予定ですので、少し先んじて、紹介をさせていただきます。長くボランティア活動に携わる経験をされてきた石崎先生ならではの示唆に富んだ内容でしたので、ぜひ全校の皆さんにも紹介をしたいと思います。タイトルは「誰かのために、力を発揮したいのなら、準備のうえ、節度ある行動を心がけよう」となっています。その一部です。

「今後、被害状況が明らかになってくるにつれて、支援や援助の要請がなされてきます。そんな話を聞いて、行きたい、行ってみたい、役立ちたいと思うのは当然のこと。しかし、災害直後に求められるのはテクニカルボランティアであり、寝る手段も食事もすべて自前で準備し、現地に余計な負荷をかけることなく自律した活動ができるボランティアです。誰かのために力を発揮したいなら、今の自分が、テクニカルボランティアもしくは自律したボランティアとなり得るかと考えてください。どうも無理だなと思ったら、今は待とう。そして被災地から離れた場所でできることを考えよう。

「テクニカルボランティア・自律したボランティア」という言葉に「なるほど」という思いです。被災地が求めている支援を正しく見極められる力、そしてそれを実行する組織的な力が求められるということですね。じゃあ、私たちは何ができるのか。いち早く動いた高校生たちがいましたね。一つは愛知県高校生フェスティバル実行委員会の皆さん、大須観音での募金活動、私たちの学校の中にもその活動

に参加した人がいると思います。もう一つは中部大学春日丘高校インターアクトクラブの皆さん。この2つの団体の強みは、大人たちにより組織されているボランティア団体と日常的につながっていることです。自分たちの奮闘がどういう形で被災地の役に立つことになるのか、その姿がよくわかり、活動にも更に意欲がわくことでしょう。これから何年にもわたる長い支援が始まります。きっと、君たちの出番が求められる時が来ると思います。

さあ、最後に先ほどの石崎先生の文章のタイトルに戻り、話を締めくくります。「誰かのために、力を発揮したいのなら」本校の生徒であれば、だれもがそう思うと私は信じています。危機に瀕した人を見れば、誰もが「役に立ちたい」と思う。でもそのためには「準備があるのだよ」と呼びかける石崎先生の声に耳を傾けたいと思います。先生の文章は「己の人間性、慎みと配慮、なにより自己の強さ、これが求められたときに確実に発揮できるか、今いる場所でこそできることは何かを考えよう」と結ばれています。3学期の私たちの生活の柱となるべきものとして心に刻み、3学期始業式の式辞といたします。

## Congratulations! Platinum Award!

12月27日・28日と台湾で開催された Asian Students Exchange Program(ASEP)に2年生グローバル英語コースの八木稜太君、渡邊穂風さんが参加をしました。日本からは本校の他にも、立命館高



校・福井商業高校・奈良育英高校・早稲田摂陵高校・大阪東高校・名古屋商業高校など、夏に開催されたWYMにも出場している皆さんが参加。その他、日本福祉大学の皆さんも含め、韓国・インドネシアからも高校生・大学生が参加をしています。

八木君、渡邊さんは、台湾の鼓山高級中学校の皆さんとペアを組み、「同性婚をどう考

えるのか」をテーマにスキットを効果的に取り入れたアクティブなプレゼンテーションを披露しました。短い期間ながら一生懸命練習をしたことがよくわかる発表でした。鼓山高級中学校の先生方の熱い指導にも深く感謝します。二人にとっても忘れられない良き経験、人生の財産になることと思います。最高の賞であるプラチナ賞受賞、本当におめでとう！君たちの奮闘に、育んだ友情に心から拍手を送ります。



### 今月の言葉 サッカー部顧問 近藤美穂子先生から女子サッカー部へのエールです

今年度のサッカー部女子チームは、とにかく明るいチームです。3年生が主体になって、どんなピンチの時も仲間たちに常に声をかけ続け、鼓舞する姿がとても印象的でした。時々、自分たちのメンタルをコントロールできず、思うようなプレーが出来ないシーンもありましたが、それでも少ない人数でも全員で闘う姿には感心させられることが多くありました。来年度はこれまで主力を担ってきてくれた3年生がいません。しかも1部リーグに昇格する予定なので、サッカー部女子にとっては、新たな試練の年となると思います。しかしながら、この1年でBEST4に入った経験から、精神力、技術力共に1,2年生も大きく成長してくれました。まだまだサッカー部女子としての歴史は浅いですが、来年度も“何かやってくれる！応援したくなるチーム”を目指して、チーム一丸となって闘ってまいります。